

# JR東海労ニュース

No.2649

2022年2月16日

JR東海労働組合



## 2022 JR総連春闘勝利！ シリーズ②

### 『JR連合NEWS』No. 78を読んで！

JR連合の『JR連合NEWS』No.78を読みました。その委員会冒頭の主催者代表の挨拶他を読んでいて疑問を感じました。

その疑問とは、この『JR連合NEWS』No.78は誰が書いたのだろうか？でした。なぜなら、JR東海ユニオン尾内委員長の挨拶で「～JR産業に『安心』を取り戻し～」を読んで、まるでJR連合の来賓挨拶みたいだと感じたからです。本来なら「～JR東海に『安心』を取り戻し～」となるのではないのでしょうか。どちらにしてもJR東海に安心を取り戻す必要があることは同感なのですが。

JR連合からの来賓として出席された鎗光俊勝労働政策部長の挨拶の「～社会変容をしっかりと見据え～」には、JR東日本会社が企んでいるジョブローテーション等を念頭に肯定するお話をされているのかなと感じました。

そして議事についての、執行部から発言について書かれている箇所では「～標準係数～」と書かれているのですが、JR東海の賃金規定「第3節 定期昇給額」第22条には「～標準乗数～」と書かれており、会社との交渉時に、会社も私たちが標準係数という言葉は使いません。

更に「～定期昇給の年度初完全実施～」と書かれていますが、これまでも定期昇給は年度初に行われてきました（実際は年度初に遡って実施ですが）。この年度初について、わざわざ活字化したことに違和感が生じましたし、会社から「年度初に実施できない」的なことをどこぞから言われているのかな、と疑いたくなるような表現だと感じました。

本当に、誰が書いた情報なののでしょうか？その疑問の元は『JR連合NEWS』No.73に遡ります。見出しに「2022春闘勝利に向け、全単組がONE TEAMで前を向いて取り組む！」となっていました。JR連合も統一要求・統一闘争で闘うんだなあと思えます。ところが、本文の中には「労使双方が『ONE TEAM』となって…」となっていました。つまり「ONE TEAM」とはJR産業労働者が団結して使用者に立ち向かうのではなく、JR各社と各労組が一体となるということです。ですから、春闘といいつつ、闘わないということを宣言したということです。とすると「～定期昇給の年度初完全実施～」は、「定期昇給は年度初ではできません、実質遅れますよ。労使『ONE TEAM』の結果だから、我慢してね、コロナだから」ということですかね。尾内委員長の挨拶は、会社に向け「組合員の声は抑えるから」という宣言だと言えないのでしょうか。